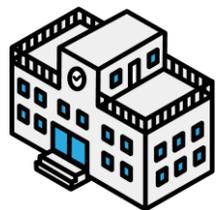


学校全体で年度末の振り返り！意欲ある意見を引き出す新たな仕組み

どのような課題があったのか

分掌以外の先生の意見、少数でも大事な意見を引き出しきれませんでした



校種：小学校

教員数：20名程度

児童数：500名程度

学校の特徴：

- 「経営支援部」・「教務部」・「学年専科経営部」・「学習指導部」・「生活指導部」・「特別活動部」と、細かく分掌組織・組織内の係に担当が割り当てられている

学校が抱える悩みは？

この学校では、学校評価における自己評価に合わせて、年度末に業務課題の振り返りを実施していました。

分掌毎に振り返り、職員会議で提案する形をとっています。

しかし、分掌ごとに振り返ることで、分掌以外の先生の意見が反映されなかったり、少数でも大事な意見が、全体の場には上がってこない状況でした。



先生方の思いを十分に反映できない

施策

「ワークショップ」形式で年度末の課題振り返り

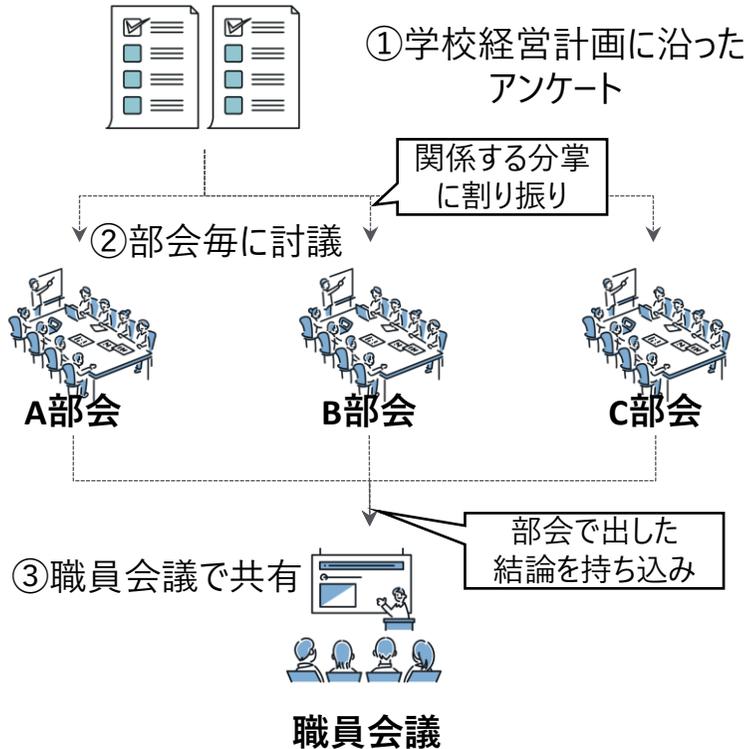
概要

- ✓ 既存業務に関する多くの意見を集め、学校全体で改善策を合意していくことを目的に実施
- ✓ 全教職員対象のアンケートを、業務改善に焦点をあて“分掌単位”で細かく意見を募るように改善
- ✓ アンケートで特にコメントの多かった“キーワード”を題材に、全教職員で改善策を話し合う場を設けた

施策の概要：年度末の振り返りの進め方

学校評価（年度末反省）に、全員で話し合うワークショップを組み込みます

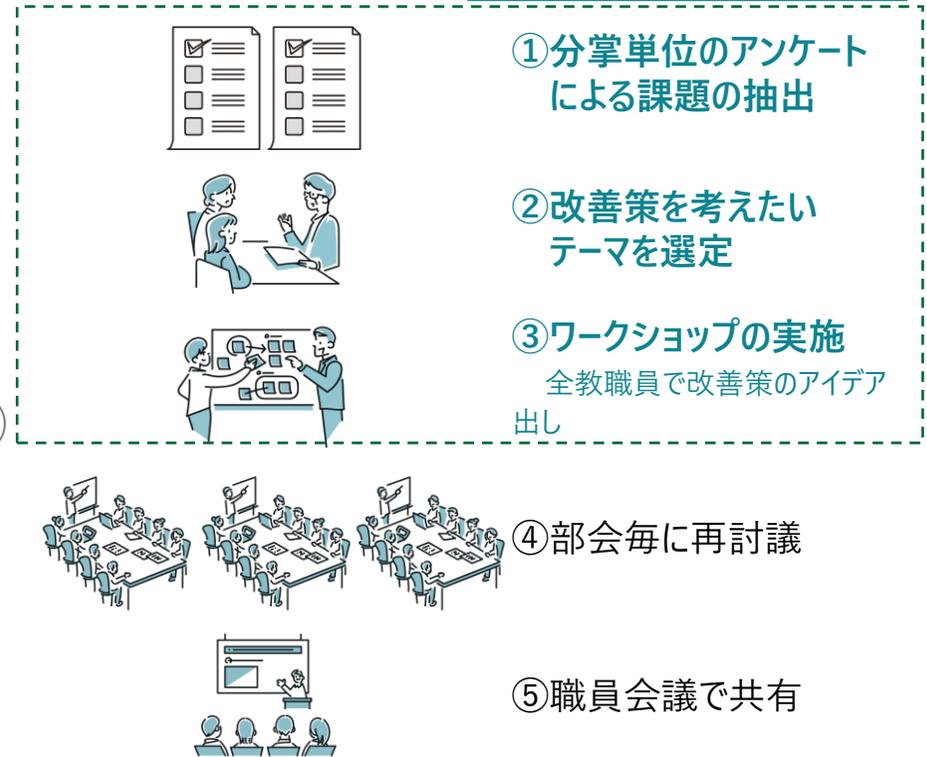
これまでの方法



分掌以外の教員の視点が反映されない

新しい方法

変わったポイント（次頁から説明）



みんなで話し合うことで、自由な発想が！

施策の概要：課題の抽出・テーマの選定

アンケート設問は具体的に書き、テーマは学校が取り組むべきものを選びます

①分掌単位のアンケートによる課題の抽出

- ✓ 分掌部会ごとに設問・回答欄を作成することで、先生方が日頃気になっていた課題を思い出しやすくする（分掌部名・主な活動）

帳票イメージ（入力用シート）

	設問	改善策案
1	経営支援部（学校運営事務課、人材育成課、広報課、庶務課、渉外課、管理課、財務・会計課・総務課）について	
2	教務部（教育課程係、行事係、学籍係、時間割係、成績管理係、教科書係、文書管理係）について	分掌部会名だけでなく、 主な業務も記載することで、 思い出すきっかけに
3	学年・専科経営部について	
4	学習指導部（A授業改善 B教育課題 教科等担当）について	
5	生活指導部（A校内・校外生活 保健 給食 B食育 特別支援 いじめ対策 不登校対策）について	
6	特別活動部（A特活・児童会 C体育的行事・学芸的行事 D儀式的行事）について	
7	その他（周年・改築）等について	

イメージ

②改善策を考えたいテーマの選定

- ✓ アンケートの頻出キーワードをテーマ候補として洗い出す
- ✓ 学校が次年度改善に取り組むべきテーマを絞り込む

イメージ

テーマ候補	最終的なテーマ
委員会	特別活動
行事	
挨拶運動	
集団下校	
情報共有	役割分担・情報共有
役割分担	
会計	会計
保護者対応	保護者対応
時程	時程
備品	備品

絞り込み



テーマはどのように絞り込めばよい？

- I. キーワードを記載した教職員の人数が多いものを選ぶ
- II. 教育委員会の裁量ではなく、学校裁量で改善できるものを選ぶ
- III. やるorやらないの2択ではなく、やり方を工夫できるものを選ぶ
- IV. 今年度の突発ではなく、次年度以降も発生する業務を選ぶ

ワークショップではアンケートの内容を確認し、改善策を話し合います

③ワークショップの実施

- ✓ 各テーマについてチームを作り、ワークシートを使いながら来年度から取り組む「新しい手段」を考えます

ワークシートイメージ（入力用シート）

イメージ

①【現在の手段】 ・この手段は、だれにとってどんな「価値」があるの？ ・本音で言うとしたら、この手段の「課題」はなんですか？		【プロジェクト名】	【メンバー】
価値	課題	保護者とより良い 関係性を作ろう！ PJ	XX,XXX
✓ 子どもの様子を共有できる	✓ HP操作大変 ✓ 個人情報の管理大変		
②【手段の提案】		Project	
連絡網は辞める	連絡アプリ活用 ICT支援員さんと連携		
難易度 (難)	難易度 (易)	③【新たな手段】 ・みんな（子ども/保護者等/教員）にとって、納得のいく手段なっていますか？	
	効果 (低)	✓ 連絡網の作成はやめて、保護者連絡アプリを極力使う ✓ 面談の時期を見直す	



みんなで話し合い、
ワークシートを埋めてみましょう！

進め方

① 今やっている方法の「価値」「課題」の把握



- ✓ アンケートの意見も見つつ、解決すべき「課題」を特定

② 新しい手段の検討



- ✓ 出来そうなことを意見出し
- ✓ 難易度・効果でアイデアを分類

③ 「推し案」の発表



- ✓ 各チーム、特に実施したい「推し案」を発表

どのような影響や効果があるか

スムーズに改善の取り組みを開始でき、意見を出し合う文化も生まれています

学校のその後...

分掌部会の前にワークショップで皆で話し合うことで、担当分掌以外の先生方の声も広く伺ったうえで、改善案を決めることができました。

また、グループワークの中で話し合った内容は当日の最後に「発表時間」を取り、共有していたため、部会後の職員会議でもスムーズに合意をすることができました

結果として「特活の活動内容見直し」・「保護者会や個人面談の時期と回数の見直し」が進みました



みんなの意見を聞くことで、全員が納得できる改善案ができた

あなたの学校で取り組むなら

どの校種で実施可能？

小学校

中学校

高校

特別支援学校

どんな効果が期待できる？

- ◆ 多くの教職員が改善策を納得している状態を作ることができ、次年度の取り組みが進めやすくなる
- ◆ 立場・年齢問わず意見を出し合う文化を作れる

どんな工夫が重要か？

- ◆ アンケートをもとにテーマを決める
 - ✓ 多くの先生が共通してあげているのは？
 - ✓ 緊急度が高いものは？ など
- ◆ 今年の学校評価（年度末反省）の位置づけ・進め方を事前に教職員に伝える
 - ✓ 去年と何が違うのか
 - ✓ ワークショップでは意見を発散させる など

